

**「生涯活躍のまちアドバイザー」養成のための
研修テキスト見直し等に関する調査事業
実績報告書**

令和2年3月

一般社団法人生涯活躍のまち推進協議会

目 次

1. 「生涯活躍のまち」アドバイザー養成の実施目的	1
2. 「生涯活躍のまち」アドバイザー養成の研修内容	1
3. 「生涯活躍のまち」アドバイザー養成の研修結果	2
4. 「生涯活躍のまち」アドバイザーの今後の方向性	3
(参考)	
実施概要	4
「生涯活躍のまち」アドバイザー 研修カリキュラム	5
アンケート結果	6
研修修了者所属一覧	34

1. 「生涯活躍のまち」アドバイザー養成の実施目的

●「生涯活躍のまち」のさらなる普及と推進に向けて、取組に着手した市町村のみならず、取組を検討中の市町村に対し、早期の段階から課題やニーズに応じた支援を行うため、「生涯活躍のまち推進アドバイザー」を養成するもの。

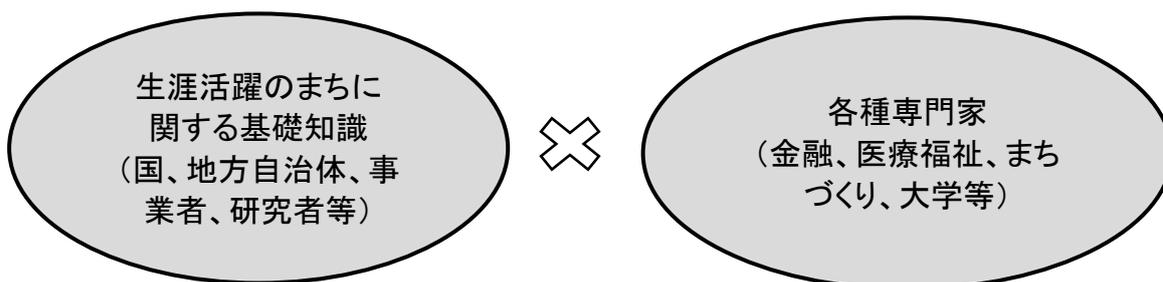
●また、研修を重ねる中で受講生のニーズ等を踏まえ、研修カリキュラムや研修テキストのブラッシュアップ等に繋げていく。

【インプット: 座学国による施策の説明、自治体等からの取組紹介】

現在の地方創生をめぐる状況や「生涯活躍のまち」の理念・基本コンセプトの方向性、アドバイザーとして求められる役割等について理解する。

【アウトプット: 多業種間におけるグループワーク】

「生涯活躍のまち」に取り組んでいる事例等を参考に、グループワークを通して、ファシリテーション能力や課題解決能力を向上させることで、生涯活躍のまちづくりの実践としてアドバイザーとしての活動のイメージを掴む。

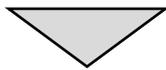


2. 「生涯活躍のまちアドバイザー」養成の研修内容

地方創生の現状や生涯活躍のまち構想の基本コンセプトの方向性及び具体的な取組事例等の基礎知識を習得することにより、アドバイザーに求められる人材像を理解する。

1日目	概要等
生涯活躍のまち	現在の地方創生に向けた取組状況や生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、目的やねらいなどについて理解し、アドバイザー人材に求められる基礎知識を習得し、構想づくりから実行計画にいたるプロセスについて学ぶ。
生涯活躍のまちの つくり方	生涯活躍のまち先進自治体の首長や先進モデルを運営する事業者より、地方経済の活性化、移住の流れ、関係人口・交流人口の拡大などの取り組みを通して、事業実現に向けての課題や目指している方向性を学ぶ。

政策の方向性や取組事例等を参考に生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、テーマに沿って、まちの課題を抽出。グループワークを行うことで、ファシリテーション能力を向上させる。



3日間で学んだ政策の方向性やビジネスモデルの事例等を知識として習得し、「生涯活躍のまち(市・町・村)」の構想の骨子を作成することで、生涯活躍のまちづくりの実践の具体的なイメージを描く。

地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち	事例をもとに、地域住民を巻き込んでいくプロセスから、アドバイザーとしての役割やファシリテーション手法を学ぶ。
事例で読み解く生涯活躍のまち	生涯活躍のまちのモデルを紹介し、様々な立場の登壇者の観点から生涯活躍のまちづくりのプロセスを検証する。
2日目	概要等
生涯活躍のまちで統合する政策課題と その対応	高齢者の活躍が期待される領域として医療・職業・住環境(い・しょく・じゅう)をテーマに政策の方向性等や事例を紹介する。
生涯活躍のまちの事例紹介	「住まい」「ケア」「活躍」「移住」「コミュニティ形成」の事例紹介、構想を推進していくための体制づくり、ビジネスモデルの事例等を学ぶ。
グループワーク①	各自治体・各人のこれまでのまちづくりを振り返りながら、課題についてさらに深掘りを行い、今までの取組事例等を参考に課題解決のための方策を考える。
3日目	概要等
グループワーク②	生涯活躍に向けてどのような取り組みが必要になるのかをグループワークを通じ、生涯活躍のまち構想の骨子を検討する。
グループワーク③	参加者は県職員や市町村職員、地域住民、事業者などの役割を想定しながら、骨子を作成する。
発表	構想の骨子を発表。それをいかに地域へ広げていくかの議論を行う。

3. 「生涯活躍のまち」アドバイザー養成の研修結果

(1) 結果

- 延べ参加者は194名、研修修了者は合計で94名
- 所属元も自治体をはじめ、金融機関等数多くの業態から参加
- 回を重ねるごとに事業者の参加が増加
- 生涯活躍のまちの新しい方向性の理解が促進
- 分野横断的に取り組む必要性を共有
- 生涯活躍のまちの基礎知識をベースとして地域に入り、自分の専門性を発揮する動き方を認識

研修修了者の分野別内訳

自治体	金融機関	医療・福祉	不動産	その他	計
31	22	17	6	18	94

(2)受講者からの意見

- 国からの説明や先行事例を通して、本事業の理解を深めることができた。
- 関係者分析等キーパーソンを見つけ、地域住民が自主的に動くようなコミュニケーションの手法等を知りたい。
- 先行事例をそのまま展開することは難しいが、自分の地域でも生かせるアイデアがあった。
わがまちにあったやり方を考えていきたい。
- 失敗事例も学びたい(どのような困難に直面し、それをどう乗り越えたかのプロセス)。
- 様々な立場や異業種の方々とのディスカッションを通して、自分とは違う視点からの発想が生まれ、大変参考になった。
- クリエイティブな思考を持った、プロジェクトを束ねるプロデューサー的な人材が必要になるのではないか。
- 今回の研修を受講しただけで終わってしまうことがないよう、受講生同士の関係構築や、より実践に近い学びの機会があればいい。

4.「生涯活躍のまちアドバイザー」養成の今後の方向性

受講生のニーズや有識者研究会における議論等を踏まえると、以下のポイントが重要であると考えられる。

<ポイント>

●アドバイザー研修の更なるブラッシュアップ

- > 研修内容充実(交付金・補助金等の活用事例、事業が立ち上がるまでのプロセスの紹介、住民向けワークショップの手法等)
- > 現場における実践的な学び(研修会場をすでに生涯活躍のまち事業に取り組んでいる地域において開催。同地域における課題解決のための構想づくり)

●養成したアドバイザーへのフォローアップ

- > 横連携(全国の生涯活躍のまちに係る情報発信、アドバイザー同士の情報共有のためのプラットフォーム)

●養成したアドバイザーの情報発信

- > 自治体とマッチング(自治体に向けたアドバイザーの所属、専門分野、活動エリアなどの情報提供)

●プロデューサー的な人材の必要性

- > 事業の統合管理者的存在の育成(左記の視点から現地で研修を実施)

(参考)

実施概要

件名	第1回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2019年9月10日（火）～12日（木）
場所	パズル浅草橋（東京）
受講者	受講者総数：51名（うち；自治体38名、事業者13名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：13名（うち；自治体6名、事業者7名）

件名	第2回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2019年10月23日（水）～25日（金）
場所	北海道自治労会館（札幌）
受講者	受講者総数：53名（うち；自治体21名、事業者31名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：15名（うち；自治体1名、事業者14名）

件名	第3回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2019年12月9日（月）～11日（水）
場所	12月9日：あすいろ、12月10日～11日：うめきた会議室（大阪）
受講者	受講者総数：33名（うち；自治体18名、事業者15名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：20名（うち；自治体12名、事業者8名）

件名	第4回 「生涯活躍のまち」アドバイザー研修
日時	2020年2月10日（火）～12日（木）
場所	2月10日：神田カンファレンスルーム 2月11日～12日：TKP九段下神保町ビジネスセンター（東京）
受講者	受講者総数：58名（うち；自治体14名、事業者44名） 生涯活躍のまちアドバイザー研修修了者（全日程参加） ：45名（うち；自治体12名、事業者33名）

生涯活躍のまちアドバイザー 研修カリキュラム

【第4回開催 日時:令和2年2月5日(水)13:00~7日(金)15:00 場所:東京都 神田カンファレンス・ルーム】

	内 容
10分	開会あいさつ・オリエンテーション
50分	基調説明 第2期総合戦略における「生涯活躍のまち」 第1期総合戦略における地方創生をめぐる状況とその理念、第2期総合戦略に向け、新たな地方創生に向けた取組状況や関連施策のひとつである生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、目的やねらいなどについて理解し、アドバイザー人材に求められる基礎知識を学ぶ。 ＜説明＞内閣官房担当参事官 中野孝浩
60分	講演 「生涯活躍のまち」 のつくり方 生涯活躍のまちの取組を全国に先駆けてプロジェクトを推進してきたその経験から、事業実現に向けての課題や目指している方向性を学ぶ。 ＜講師＞速水健二((福)佛子園 B's行善寺代表)
60分	講演 「地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち」 住民参加型のプロジェクトに必要な仕掛けづくりやアイデアを豊富な事例をもとに紹介。地域住民をいかに巻き込んでいくプロセスから、アドバイザーとしての役割やファシリテーション手法を学ぶ。 ＜講師＞山崎 亮(studio-L 代表)
120分	鼎談 「推進アドバイザーに求められる姿勢とは」 中野孝浩×速水健二×山崎亮×堀田直揮
60分	講義 政策課題の整理と理解 地方創生に関連する施策で、高齢者の活躍が期待される領域として医療・職業・住環境(い・しよく・じゅう)をテーマに政策の方向性、補助金や事業について生涯活躍のまちの観点から紹介。 ①テーマ(い)「活力ある超高齢社会を作るには」 ②テーマ(しよく)Soceity5.0 地方都市における次世代産業育成 ③テーマ(じゅう)まちづくり・地域連携・エリアマネジメント ＜講師＞後藤 純(東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師)
60分	講義 事例紹介 地域住民や高齢者の活躍が期待される領域として生涯学習をテーマに地域運営組織や公民館を活用した取組を紹介。 ＜講師＞荻野 亮吾(東京大学高齢社会総合研究機構 特任助教)
180分	講義 事例紹介 生涯活躍のまち推進マニュアルに提示している要素である「住まい」「ケア」「活躍」「移住」「コミュニティ形成」の事例の紹介、構想を推進していくための体制づくり、ビジネスモデルの事例等を学ぶ。 ＜講師＞堀田 直揮(青年海外協力協会 事務局長)
120分	講義・ワーク① ディスカッションテーマ 「わが町を生涯活躍・人生100年時代の観点から点検する」 ＜ファシリテーター＞ 堀田 直揮(青年海外協力協会 事務局長)
120分	講義・ワーク② ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちに取り組む最初の一步を考える」 ＜ファシリテーター＞ 堀田 直揮(青年海外協力協会 事務局長)

アンケートの結果

	講義等	取組への具体的な評価	取組への具体的な要望
第1回 生涯活躍のまちアドバイザー研修(東京) 2019年9月10日(火)~12日(木)			
地方創生の現状や生涯活躍のまち構想の基本コンセプトの方向性及び具体的な取組事例等の基礎知識を習得することにより、アドバイザーに求められる人材像を理解する。	1. 基調説明「生涯活躍のまちについて」 中野 孝浩(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局内閣参事官)	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯活躍のまちのイメージがうまく掴めた。 ・生涯活躍のまちがなぜ必要なのか理解が深まった。 ・県としてまだ生涯活躍に関する基礎知識、ノウハウがないので勉強になった。 ・農福連携の取組、生涯活躍のまちと地域再生など詳しく知りたい。 ・「移住」→「関係人口の増大」→「地域コミュニティに資する活動」と政策が変遷していく過程が興味深かった。 ・実際の自治体の成功事例が参考になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来のCCRCから日本版を考えるようになったプロセスをもっと知りたい。→次回以降に反映。 ・地方創生交付金をこんな事業に活用しているといった話がほしい。→来期の課題。
	2. 基調講演「生涯活躍のまち・つる」 山口 哲央(山梨県都留市役所総務部企画課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・国の施策の受皿として、いかに自分のまちを良くするかという視点を取り入れていて素晴らしい。 ・地域の実情を分析され、強みを活かしたまちづくりを目指されているところが大変参考になった。 ・大学との連携した事業の具体的を聞くことができてよかった。 ・実際の自治体の成功事例が参考になった。 ・全庁横断的に取組をおこなっている。 ・様々な補助制度を利用するテクニカルな部分、条例をつくる実行力など感銘を受けた。一人の力、部署だけでは回らないが、最初の起爆点として熱量のある人材が行政にいることが大きい。 ・生涯活躍のまちの手段と目的を明確に示されたのが参考になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗談のあたりの話をできればもう少し聞きたかった。→ワークで反映。



<p>3. 基調講演「地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち」</p> <p>西上ありさ (studio-L)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティデザインの話やアドバイザーとしての視点が分かり参考になった。 ・おもしろい事例を多く紹介いただき参考になった。 ・地域の方が受け入れてもらいやすいアプローチの仕方、ファシリテーターやデザイナーとして活動するポイントを学ぶことができた。 ・物事を違う角度から考えてみることや、地域住民の力をうまく引き出す手法について分かりやすく話を聞くことが出来た。 ・聞き上手になること。とにかく肯定することなど参考になるキーワードを教えてくださいました。 ・なんでも屋さんにならないこと、ローカルルール、起業のタネ、ラインの活用など参考になった。 ・“Yes, and”というマインド、正しさ×楽しさが印象に残った。 ・行政の意向と市民のやりたいことのミスマッチがあることに共感できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーとして必要な資質である地域へのコミュニケーション力をつけるための講義が必要。→来期の課題。 
<p>4. 鼎談「生涯活躍のまち」アドバイザーに求められる姿勢とは」</p> <p>中野 孝浩 × 山口 哲央 × 西上ありさ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演の内容を補完する話が多く聞けてよかった。 ・いろんな立場の考えや悩みを理解できた。自分の地域がよくなるように住民が幸せにくらせるように「生涯活躍のまち」をうまく利用できたらいいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体や事業者がプレゼンを行い、それに対し議論するといった形も面白いのでは。→ワークに導入。 ・官民連携による生涯活躍のまち、離島過疎地域における取組などを聞きたい。→西上さんの海士町の事例で説明。 ・生涯活躍のまちに取り組んでいる事業者の課題についてディスカッションしてほしい。→ワークで反映。 ・本県および市町村に生涯活躍のまちのニーズはあるものの、何をしたらよいか、何をすべきかわからないという実情があると思う。国、

			<p>県、市町村それぞれの役割を学ぶが重要だと感じた。国—県—市町村—事業主体、それぞれの立場で本音のやりとりが見たい。→来期の課題</p> <p>・各自治体で抱えている課題について意見交換をして欲しい。→来期の課題</p>
<p>政策の方向性や取組事例等を参考に生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、テーマに沿って、まちの課題を抽出。グループワークを行うことで、ファシリテーション能力を向上させる。</p>	<p>5. 講義「政策課題の整理と理解」</p> <p>テーマ(い) 地域包括ケアシステム、共生社会、健康増進</p> <p>テーマ(しよく) Soceity5.0 地方都市における次世代産業育成</p> <p>テーマ(じゅう) 住宅政策、まちづくり・エリアマネジメント</p> <p>後藤 純(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)</p>	<p>・本講義で示された内容は、本市の取組と概ね合致するところ。国の目指す生涯活躍のまちも同様の方向性なのか。</p> <p>・いま住んでいる人たちが幸せに暮らし続けられる地域をつくるのが大切だと感じた</p> <p>・データに基づいた事例が参考になった。</p> <p>自分のまちの現状 10 年後、20 年度のデータを考えて今後の取組に活かしていきたい。</p> <p>・2 時間の講義で 3 時間のボリュームがあった。根拠となるデータが示されて理解が深まった。</p>	<p>・内容が難しすぎる気がした。「生涯活躍のまち」アドバイザーが最低限知っておくべく内容にポイントを絞ったほうがよい。→西上さんの講演、事例紹介などでフォロー。</p> <p>・もう少し長い時間で聞いたかった。→来期の課題(ブラッシュアップセミナーで)</p>
	<p>6. 講義・事例紹介「地域運営組織を活用した取組」</p> <p>荻野 亮吾(東京大学高齢社会総合研究機構特任助教)</p>		<p>・ひとつ一つの事例を詳しく知りたくなった。自分の地域でも生かせるアイデアがありそうだった。→次回以降で事例説明を増やす。</p>
	<p>7. ワーク① ディスカッションテーマ「わが町を生涯活躍・人生 100</p>	<p>・今回のようなグループワークを地元を持ち帰ってできればと思う。</p> <p>・自治体の方が危機感、目的意識を持っていると感じ、うらやましく思いつつ、</p>	<p>・ファシリテーターがちゃんとして、小グループ制のワークの様な形で自己紹介やテーマを決める</p>



	<p>年時代の観点から点検する」 ファンリテーター： 後藤 純</p>	<p>ないものねだりせず自分も頑張っていきたい。</p>	<p>等の工夫があると喋りやすいし、参加しやすい。→次回以降のワークに反映。 ・今回は行政関係の方がほとんどだったので、事業者さんがもっと参加するとよりリアルなワークになったのではないかと思います。→次回以降、事業者の比率が拡大。 ・同じ立場の人が集まったのワークであればもっとよくなると感じた。→グループ分けに工夫。</p>
<p>3日間で学んだ政策の方向性やビジネスモデルの事例等を知識として習得し、「生涯活躍のまち（市・町・村）」の構想の骨子を作成することで、生涯活躍のまちづくりの実践の具体</p>	<p>8. 講義・事例紹介「住まい」「健康」「活躍・しごと」「移住・住み替え」「コミュニティ形成」 堀田 直揮(公益社団法人青年海外協力協会事務局長)</p>	<p>・どこに何を期待し、また新しい効果がどのように出てきたか参考になった。 ・生涯活躍のまちのイメージ、強みや資源、課題などわかった。</p>	<p>・社会福祉法人が高齢者デイサービス、障害者就労継続支援による居酒屋運営など「ごちゃまぜ」にやっているテクニカルな方法が聞きたい。→次回以降の紹介でデータなども紹介。</p>
	<p>9. ワーク② ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちに取り組む最初の一步を考える」 ファンリテーター 一:後藤 純</p>	<p>・Share 金沢の話題など参考になった。 ・県や市に伝えたいが、伝えたところで反応がなければ自分でやるしかない。 ・行政サイドの事情や、考え方、立場等が知ることができてよかった。</p>	

<p>的なイメージを描く。</p>	<p>10. ワーク② ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちに取り組む最初の一步を考える(2)」</p> <p>ファシリテーター: 後藤 純</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地方でも開催していただきたい。→今年度は札幌市、大阪市で開催。 ・グループワークが多く、いろいろな意見が聞けてよかったが、その分講演が少なかったので自分のような初任者としてはもう少し話が聞きたかった。→来期の課題 ・具体的先進事例の紹介をもっと。→次回以降の講演、講義で増やしている。 ・サ高住+高齢デイはダメというのは重々承知しているものの走り出した以上やるしかない。逆転を目指す手法、仕掛け、工夫はないか。→事例紹介からヒントを。 ・定期的な研修や事例の共有、アドバイザー同士でのディスカッションがあるとお互いにスキルアップするのではないか。→受講者の ML 作成。SNS による情報共有の仕組みを作成。 ・オンラインでの研修等があると気軽にコストもかからず参加できる。→来期の課題。
<p>第 2 回 生涯活躍のまちアドバイザー研修(札幌) 2019 年 10 月 23 日(水)～25 日(金)</p>			
<p>地方創生の現状や生涯活躍のまち構想の基本コンセプトの方向性及び具体的な取組事例等の基礎知識を習得することによ</p>	<p>1. 基調説明「生涯活躍のまちについて」</p> <p>中野 孝浩(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局内閣参事官)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後自分たちが福祉の分野でどの様に関わっていったらよいのか、共生型とリンクすることも多く興味深かった。 ・生涯活躍のまちの理解が整理できなかったなか、取り組みからポイント、現状までとてもわかりやすく教えていただき、その後の講義の目的がわかった。 ・いままで特段意識した分野ではなかったので、全般的な要点を理解できてよかった。 ・すべて初めてのことを学んだのでよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事例において運営費等のコスト、修正等の内訳を詳しく聞いてみたい。→来期の課題(ブラッシュアップセミナー等) ・もっと時間をかけて話が聞きたかった。→来期の課題(ブラッシュアップセミナー等) ・プロデュースについて詳しく教えてほしい。→来期の地域プロデューサー養成講座で。

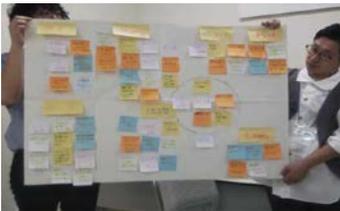
<p>り、アドバイザーに求められる人材像を理解する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・事例を交えた説明で、現在の日本版 CCRC の政策の位置づけがよく理解できた。 ・人が集まって交流できる仕掛けを実践していきたい。 	
	<p>2. 講演「生涯活躍のまちの必要性と課題」 竹中 貢(北海道 上士幌町長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町長自らまちの発展に向け情熱を持って取り組まれてきた方なのが話を伺っていて刺さるものがあった。 ・官民で一緒に取り組むためのビジネスモデルと思う。同じ道内の大きな町とは言えない場所で CCRC を行われ、数値的にも成果を挙げられている市町村があったことが驚きでもあった。 ・リーダーシップを担う人がいて成り立つのか。私たちではどうなのかを考えると少し不安になった。 ・具体的に動き始めた時期、失敗例などを挙げていただき、ありがたかった。事業への熱意の大切さも勉強になった。 ・町長のリーダーシップもさることながら、コンセプトを掲げ、まちづくり会社を設立したのは素晴らしい。 ・大きなまちではなかなかできないと思うが、先見性とリーダーシップをもって理念の下で進んでいることがわかった。ニーズを把握することを続けてきていると思った。 ・官民協働の法人、自走への国の支援に同感。横のつながりをもたせ、スムーズな移住者の受け入れ体制が勉強になった。情報交換会でもさらに深い情報をいただき、たいへんよかった。 ・首長の生の声で聞いた地域再生推進法人の立ち上げの工夫点、ご苦労された部分がとくに興味深く、現状の課題と対策も共感する部分が多く有意義だった。 ・北海道のほとんどが人口減少、とくに若者世代が減少するなか、先駆的な取り組みとして札幌市ではできないことをされて 	<p>・全体として素晴らしいが、これから取り組む立場としては、取り組み当初に苦労したこと、気を配ったことなどが聞けるとよりよかった。→次回以降のゴジカラ村、B's 行善寺などの講演で報告。</p> 

		いる。素晴らしい町長のリーダーシップを感じた。	
3. 座談会「事例で読み解く生涯活躍のまち」 中野 孝浩 × 竹中 貢 × 西上 ありさ ファンリテーター： 五十嵐智嘉子 (一般社団法人北海道総合研究調査会理事長)	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの衰退や高齢者問題、産業の担い手、人口減少、資源開発など各地域の取り組みや実践などテーマが広く、普段自分が関わっている仕事からもかけ離れたお話も多くあり、理解するまで少々時間を要した。多職種連携は今後もっと意識していく必要があると思った。 ・受講生から声を聞いて、専門の先生から改めて説明していただけたので楽しく学べた。 ・各立場の人の考えを聞いてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイミングとして2日目くらいまで勉強してから開催した方がよい質問が出たのではないかな。→事例後のワークでカバー。 ・グループごとの意見等についてコメントいただけるのはよかったが、この手法だともっと時間が必要。たとえばグループでの話し合い1時間、その後のコメント1時間という配分でもいいのではないかな。→ワークでカバー。 ・地元では官民共同しながら協議会や勉強会を立ち上げているが、誰が事業主体となって(まちづくり会社?)が実行すると、収支も合って持続可能なまちづくりができるのか、コミュニティができるのか、が疑問。とくに収支は民間のみでは合わない。継続的にリスクテイクするのは官ではないかな。→ある事業にどのくらいの費用、どれだけの人と時間をかけられるかを講義で説明。 ・失敗事例を取り上げて、要因について識者の意見を聞いてみたい。→ある事業にどのくらいの費用、どれだけの人と時間をかけられるかを講義で説明。 	
4. 講演「地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち」 西上 ありさ (studio-L)	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングやその後のプランニング、人の巻き込み方など女性的な気遣いなども多く感じる場所もあり、デザインする⇔見える化する事でイメージしやすく楽しかった。デザインスクールが今後また開催される際は想像力や感性に刺激を受けたいので参加してみたい。“Yes, and”は実践したいと思う。 		

		<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも楽しさとデザインが必要だということ、何事にもチャレンジする方がいいと感じた。 ・企画とアイデアは違うという言葉が刺さった。 ・企画会議をしてもアイデアの乱立で收拾がつかなくなるが多かったため、企画とは何かを考えるいいきっかけになった。 ・内容はもちろんプレゼン力に圧倒された。 ・studio-L さんとは以前仕事をしたことがある。場づくりについては本当にさすがだと思った。 ・たいへん参考になった。仕組みづくりや計画作成にいたるポイントなどを学ばせてもらった。 ・内容の大半を占めた介護イメージの刷新事業の多くは私たちだけでは実現できないもの。個人的には得られるものがなかった。 ・新たな意見収集の方法のヒントをもらえた。高校生や 20 代など、地元に住み続けてほしい年代への手法として取り入れていきたい。 ・Yes and を実行してみる。 ・古物商の話などはたいへん参考になった。 ・デザイナーの必要性を十分感じた。 (studio-L は)プロだと思った。 ・ニーズを引き出す形や実現するきっかけを聞いてよかった。 	
5. 情報交換会		<ul style="list-style-type: none"> ・1 日目に挨拶できたことで、2 日目以降、グループワークがスムーズにできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただの名刺交換会などにならないよう、異業種交流の場のような感じであれば、地域性や仕事の特性も皆さん違うので、何かお題を設定すると話の取っ掛かりになるのではないか。 →来期の課題。

			<p>・ピザではない方がよかった。→次回以降、変更。</p> <p>・2日目からのグループワークのメンバーでの情報交換の時間があれば、2日目以降よりスムーズに深い話ができるのではないか。→要検討。</p> <p>・最初に自己紹介あった方がよかった。→要検討</p>
<p>政策の方向性や取組事例等を参考に生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、テーマに沿って、まちの課題を抽出。グループワークを行うことで、ファシリテーション能力を向上させる。</p>	<p>6. 講義「政策課題の整理と理解」 テーマ(い)地域包括ケアシステム、共生社会、健康増進 テーマ(しよく) Soceity5.0 地方都市における次世代産業育成 テーマ(じゅう)住宅政策、まちづくり・エリアマネジメント 後藤 純(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)</p>	<p>・社会保障、高齢者、貧困、子育て支援や障害者支援など地域の課題はたくさんあるが、今回の講義を受けて、いま一度地域包括ケアシステムを再度勉強しようと思った。</p> <p>・地域で活躍されているケアマネが今後、地域課題に関するニーズの汲み取りなどの一躍を担われるのだと思うが、障害福祉や民生委員、医療機関、町内会など地域のなかで生活し、「わがごと」として多職種で話し合える専門部会の立ち上げが将来的には必要なのではないかと思った。</p> <p>・最期まで暮らせるまち、戻ってきたいまちをテーマとして住民、職場で話をする機会をつくりたい。その取り組みが移住につながると思う。うまくいっていない福祉担当者との横のつながりを進めたい。</p> <p>・補助事業として、健康寿命延伸産業創出促進事業、空き家等の流通・活用促進事業、小さな拠点の形成推進事業を活用したい。</p> <p>・日本の現状と課題が自社と照らし合わせて確認できてよかった。</p>	<p>・施策と住民の心理面への影響の関係性についての説明があってもよかった。→次回以降の講義で言及。</p> <p>・なぜ生涯活躍のまちが必要なのか、その根本の講義をしていただきたかった。→基本説明「生涯活躍のまち」で言及。</p>
	<p>7. 講義・事例紹介「住まい」「健康」「活躍・しごと」「移住・住み替え」「コミュニティ形成」</p>	<p>・共生社会的コンパクトシティをつくったことに驚き、お話を伺っていてわくわくした。この先どんな事を仕掛けられるのかもっと話を伺いたかった。</p> <p>・集まる場所だけではなく、小さな集落であれば災害・防災の拠点としての利用で</p>	<p>・仕掛ける側の側面からのお話が中心であったので、佛子園のプロジェクトを行った地域の方、拠点でキーパーソンになったような人物の方に当時のことや未来に向けてのビジョンなどをテーマにしたプチ座談会みたいな地域の声などあったらいい。→</p>



	<p>當間 智雄(公益社団法人青年海外協力協会地域連携課長)</p>	<p>あたり、マンパワーに関しても強いまちなんだろうなと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社福が取り組む具体的な事業がわかってよかった。とくにお金の面がリアルだった。 ・JOCA 職員の移住という特殊性がきっかけになっているような気がする。 ・ごちゃまぜで多世代、健常者も障害者も生き生き暮らしのできる事例として参考になった。収支は本当に合っているのかは疑問。 ・新たに建てるのではなく、既存のものを再利用することで、地域の理解を得られるように、デザイナーとプロデューサーの重要性を理解できた。 	<p>来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の長い事例も見たい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・現状の課題をもう少し聞けるとありがたい。→次回以降の事例紹介で言及。
	<p>8. ワーク① ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちを構想する」 ファシリテーター：後藤 純</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズが多様化する時代にはマーケティングが不可欠。公的サービスばかりではなく、付加価値を有する民間事業者が独自のものを打ち出すベンチャーなども話題になるのかと思った。 ・デザイナー、プロデューサーではないが、クリエイティブな思考を持った専門職が必要になるのかと思う。 ・異業種の方の自分とは違う視点からの発想がためになった。異業種の方との話には刺激を受けた。 ・人生 100 年時代というなかなかイメージできない部分を総体的に捉えていくのは難しく、自分の感じる部分、できる部分から取り組んでいきたい。 ・地域マネジメントは健康寿命の延伸、社会参加を社会全体で包摂して成り立たせること。自立支援を具体的にサポートする様々な手本を体系化したい。 ・地域のニーズに対応するようマーケティングの必要性と住まい、移住、活躍、コミュニティ形成、健康の各カテゴリーに分類 	

		<p>したが、各人(スタッフ)が活躍し、楽しむこと、対話を重ねることが重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に自治体をひとつ選んで、グループでまちづくりのプランをつくってみたい。 ・ニーズの引き出しなど、仲間づくりにつながりたい。 	
<p>3日間で学んだ政策の方向性やビジネスモデルの事例等を知識として習得し、「生涯活躍のまち(市・町・村)」の構想の骨子を作成することで、生涯活躍のまちづくりの実践の具体的なイメージを描く。</p>	<p>9. ワーク② ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちのモデルケースを分析する」</p> <p>ファシリテーター：後藤 純</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの多様化に合わせた選択肢であったり、まちぐるみで参加・協働ができる仕組みであったり、岡山県奈義町のケースに関してはグループ内でも取り組みに関して話が盛り上がった。 ・あえて成功例を考えないことで新しいアイデアが生まれて勉強になった。 ・このワークをアドバイザーが主体となって住民とともに行いたいので(studio-Lさんから)ノウハウを学びたい。 ・空き家をどうするか、ではなく、空き家をつくらないためにどうしたらいいかという発想をもっていきたい。 ・輪島市、奈義町の事例から、できていることと課題が整理できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーマンをどうするか。地元から探す？ 外部から連れてくる？ キーマンのつくりかたについて知りたい。→ 来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)
	<p>10. ワーク③ ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちに取り組む最初の一步を考える」</p> <p>ファシリテーター：後藤 純</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当日寄せ集めのグループだったので、前日の考えとはまた少し変化したなかでパタパタした感じで進んでいった。共通項が少ないところから互いに見据えていることが違うのは当たり前で、得意・不得意の分野もあるが、意見交換できたのはよかった。 ・高齢者にとられることなく、子どもから始めてみようと思った。地域資源を取り込めることにも気づいた。 ・ニーズ調査の再認識と実施。収益性と継続性、見直しを含め、役所との有用性、共同性などの公共性を共有したい。 ・やらなければならないことが少し見えてきた。地域の方々との関わり方を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと作り込む時間がほしかった。→ 次回の講義に反映。

	<p>11. ワーク③ デ イスカッションテ マ「生涯活躍のま ち構想へのアド バイス・ラッシュ」 ファシリテータ ー:後藤 純</p>	<p>・自分たちの取り組みに関してディスカッ ションをさせてもらった。分野の違う仕事をし ているが、地域との関わり方であったり、タ ーゲットに対してのアプローチが人それぞ れで自分でもよい部分は試してみたいと 思った。実際取り組まれている話をさらに 突っ込んで伺ったのは収穫だった。</p> <p>・畑違いの分野の方の課題に関して要検 討した際、自由な発想で話しをさせてもら い楽しかった。</p> <p>・構想を具体化し、推進していきたいと思 う。筋道が見えてきた。</p> <p>・介護予防の考え方が、講師の話で整理 できた。</p>	<p>・各地域、各メンバーの情報が事前 にわかるともっと話しやすいのではな いか→来期の課題。</p>
	<p>全体をつうじて、 アドバイザー人材 育成として取り組 んで欲しいこと、 期待することなど</p>	<p>・大変多くの気づき、学びをありがとうございました。できるところから実践に移行したいと思う。</p> <p>・行政の方、金融の方が参加していただいたことで、介護事業者としての自分の学び、共通語が増えてうれしかった。</p>	<p>・今回の研修を受講しただけで終わ ってしまうことがないよう、市町村単 位で取り組まれているところに見学 やフィールドワークに参加する機会 があればいい。→受講者の ML 作 成。SNS で情交換を。</p> <p>・このまま続けて定期的に開催して ほしい。→受講者の ML 作成。SNS で情交換を。</p> <p>・このアンケートでニーズ調査をする のであれば、講義の直後に書かせた 方が正確。→要検討。</p> <p>・モデル研修のためか、アドバイザー としての今後の役割が不明確な気が する。同一自治体の官民の参加が必 要なのではないか。→来期の課題。</p> <p>・ニーズ把握に特化した講義もあると いい。→来期の課題(現場でのブラッ シュセミナー等)</p>
<p>第 3 回 生涯活躍のまちアドバイザー研修(大阪) 2019 年 12 月 9 日(月)～11 日(水)</p>			
<p>地方創生 の現状や 生涯活躍</p>	<p>1. 基調説明「生 涯活躍のまちに ついて」</p>	<p>・初めて「生涯活躍」のことを考えた。基本 的な理解を深めることができた。</p>	<p>・地域再生推進法人に指定されるま での経緯と、その後の課題、問題 点、そして進捗状況が知りたい。→</p>

<p>のまち構想の基本コンセプトの方向性及び具体的な取組事例等の基礎知識を習得することにより、アドバイザーに求められる人材像を理解する。</p>	<p>中野 孝浩(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局内閣参事官)</p>	<p>・これまでの成果を踏まえた今後の新たな方針についてご説明いただき勉強になった。</p> <p>・南部町や奈義町の事例から、具体的にどんなことを成功イメージとしてとらえているのか、よくわかった。</p> <p>・CCRC＝生涯活躍のまちの意味・意義が浸透しない5年間は手探り、第2期では前期を踏まえてシニア移住にこだわるのではなく、地域包括ケアシステム、集落活動センター、自治会、町内会を見直し、リニューアルし、地域の課題がある程度解決できる CCRC を目指す。</p> <p>・ここまでアグレッシブなことを考えておられる官僚の方がおられるのを知り、うれしかった。</p> <p>・これまでの地方創生の歴史(ふるさと創生でどうして1億円をくばることになったのかなど)を知りたい。</p> <p>・現状の介護保険制度は今後の生産年齢人口の減少によりいづれ維持できなくなり、そのために生涯活躍のまちとはコミュニティで支え合う仕組みを構築することが目的と考えていた。</p>	<p>来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <p>・施設型だけでなく、エリア型の説明もほしかった。施設型はビジネスモデルを作成しやすいが、エリア型の財源確保(自主財源)の事例を知りたい。→事例紹介で言及。</p> <p>・これからのコミュニティの位置づけ、居場所、役割、その運営ノウハウについてファイナンス、ローンの仕組みなど、金融機関の果たす役割、新しい人の流れ、経済も知りたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <p>・総務省、経済産業省からも一緒に講義いただけると面白いと思う。→要検討。</p> <p>・政府主導で実践している「生涯活躍のまち」の取組の内容、地域事例について理解できた。この内容を通じて、どのように人を動かすのかは、人の考えや想いを変えないとできないと思料。人の心を変えるきっかけとなるメリットなど打ち出さないと大きくは動かないだろう。とくに民間事業者は、政府方針とどうかわるべきか思案している。その打開策を見つける内容をいただきたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <p>・どの講義も資料がたくさんあり、時間がなくて話されないことが多く、もったいないし、十分に聞きたい。→資料を読んでもらい、情報交換会で質問するなど時間をつくる。</p> <p>・生涯活躍のまちのコミュニティづくりの推進について、目的は何か、何を期待するのかを持論でもよいのでは</p>
--	---	---	--



			<p>話いただきたい。→第4回の座談会で言及。今後に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部の事例も聞きたかった。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・民間サイドからみた行政への説得、協力してもらうための材料がほしい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・どういった部分に国の支援が入るのか、県の役割は何か、など少し明示いただくと、持ち帰った際、内部にスムーズに伝わる。→要検討。 ・地域ブランドを活かした生涯活躍のまちの取組についての事例があればと思った。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)
<p>2. 講演「ゴジカラ村の風景 世代を越えてまざって暮らそう」 大須賀 豊博(社会福祉法人愛知たいようの杜理事長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の抱える問題を認識でき、有意義な講義だった。 ・「数字・効率・成果」を求めて仕事をしてきた軸を変える必要があるということがわかった。 ・ひとり一人に寄り添う工夫が素晴らしい。男性はきねづかシェアリング、女はデイサービスの調理、子育て後の女性はどんぐりの杜。 ・ゴジカラ村はひとつのコミュニティの理想郷。事業継続していく上での、コストとの兼ね合いはどうしているのかに興味がある。 ・前理事長で現長久手市の市長の想いを現理事長が引継ぎ、人を動かす4つの言葉でたくさんの味方をつくっていく。困っていることを地域に投げかければ、誰かが助けてくれる。会社型の施設ではなく、子ども、元気な高齢者、OL、動物までの多世代住み家としてのゴジカラ村と理解した。 ・施設型の立ち上げ、理念についてはよく理解できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政モデル(財務)の内容を聞きたかった。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・法人運営のなかで自主財源の確保が大きな課題であり、これを克服しなければ、法人を維持できない。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・おせっかい、わずらわしさ、まざつての暮らし、わざと未完の部分(それをみんなで補う。参加)、結果が出るまでの時間への投資。 ・地域の様々な資源を活用し、ときには法や規則の障壁をうまく乗り越えながら活用される話は、これから同じような事業をしようとしている者にとってたいへん参考になった。現場の見学もしてみたい。 ・行政である長久手市とステークホルダーとなった民間事業者による地域おこしの成功事例だと思う。 ・自己の地域でどうすべきか。真似をしなくても地域おこしとして、住民を自発的に動かす仕組みが必要と感じた。 ・民間事業者としては企業利益が出ない、または地域貢献できる資産力などがなくなると、ステークホルダーとして活動することは難しいのではないか。 ・ごちゃまぜに生きている姿に感動。学びは、「この人はこういう考えなのか」という他者理解。この学びがあるからこそ、優しい世の中になっていくのだと思う。 ・若い人が多いまちと聞いていいことばかりと思ったが、つながりがないという短所があった。ゴジカラ村は先駆け的な存在。共感するところが多かった。 ・住民の役に立ちたいというニーズを上手く引き出している点、様々な人のニーズを上手く組み合わせる事業化している点が大変参考になった。 ・みんなに役割をつくり、わずらわしさを生む暮らしを、というコンセプトに共感した。真似られる部分は、きねづかシェアリングなど、多くあると思った。 ・当市で実施している居場所づくりについて参考になる点が多かった(高齢者と子どもをつなぎ、子育て支援)。 	
--	---	---

<p>3. 講演「地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち」 西上 ありさ (studio-L)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くことの大切さ。決めつけない、否定しない雰囲気づくり。そういったことの積み重ねが地域を巻き込んだ生涯活躍のまちづくりに欠かせないことがわかった。 ・「のろし」の話は、とても共感できる場所があった。男性特有の興味であることも面白い傾向だと思う。 ・自治体への還元の仕事方を考えつつ聞いた。 ・場のデザインづくりは大切。 ・つながりをデザイン。ワークショップなど、グループワークの進め方は大いに参考になった。 ・参加しやすく誰でもわかりやすいコミュニティ活動方法だが、理論的にカリキュラムされた手法だと感じた。固定観念にとらわれず、あらゆることを聞き、受け入れて、自発的に行動する人を取り込むことが有効。各人の自発的な考え、行動を組み入れ、利用すれば、より有効なまちづくりができるのではないか。 ・ゼロから何かを生み出すことはたいへん。そのなかでどうワクワク感をつくるか、どう導くか、が組み込まれていて、その手法や根拠が勉強になった。 ・あなたのプロジェクトに楽しさ・美味しさ・美しさ・笑いがありますか？というのとてもよい投げかけ。会議のファシリテーションやオシャレ・デザインの重要性も改めて気づかされた。 ・今後の地方創生における「住まい」「共生社会」「中の中の高齢者社会」等、重要テーマの多くで楽しさ・笑い・オシャレ等が解決の鍵になるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーション、デザイン思考、“Yes, and”など、キーワードがたくさんあったが、時間があれば、概念的な部分も説明してもらいたかった。→要検討。 ・アウトフレームの話が多かったことで、もっと現場の話があるとよかった。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)
<p>4. 座談会「事例で読み解く生涯活躍のまち」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの方の専門的な意見、本音が聞けてよかった。地域の課題はどこも似ていて、私が住むまちでも共感できる部分が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パネリストと参加者が「朝まで生テレビ」風に本音でディスカッションをできれば、さまざまなアイデアが出ると

	<p>中野 孝浩×大須賀 豊博×西上 ありさ</p> <p>ファシリテーター： 堀田 直揮</p>	<p>・地方に若者のまとまった雇用を生み出したの答えがないのは分かっているが、有識者が本音で話すのを聞いてみたい。</p> <p>・多岐のテーマについてディスカッションをされていて、とても勉強になった。</p>	<p>思う。パネリストとファシリテーターの一方通行だった。→次回に改善。</p> <p>・取り上げていただきたい項目はまちづくり会社。収益計上できる仕組み、スキームの成功事例を聞きたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <p>・難しい点や気を付けるポイントを、スタートアップ向けに話していただくとありがたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p>
	<p>5. 情報交換会</p>	<p>・多業種の方々が、それぞれの観点で参加されているのが興味深かった。</p> <p>・アドバイザーは実際に事業に取り組んでいる人との情報交換がよりよい研修になる。</p>	<p>・名刺がぜんぜん足りなかったのでPDF化して送ってくださるのはとてもありがたい。→対応。</p> <p>・所属だけでなく、得意なこと等も名簿に記載してもらえると、話をしたい人が絞れる。名札の字をもっと目立つようにした方がいい。→来期の課題。</p> <p>・もうすこし楽しそうな雰囲気づくりがあるとよかった。→次回で改善。</p> <p>・テーブル方式、席替えがほしかった。→来期の課題。</p> <p>・講師の方々にももう少し参加いただき、テーブルごとに分かれると、お話がもっと聞けたと思う。→来期の課題。</p>
<p>政策の方向性や取組事例等を参考に生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、テーマに沿って、まちの課題を抽出。グ</p>	<p>6. 講義「政策課題の整理と理解」</p> <p>テーマ(い) 地域包括ケアシステム、共生社会、健康増進</p> <p>テーマ(しよく) Soceity5.0 地方都市における次世代産業育成</p>	<p>・データに基づくわかりやすい講義だった。</p> <p>・人生 100 年、誰も体験したことのない社会、どうやってみんなが活躍できる社会をつくるか、という視点から生涯活躍のまちを考えること。白紙からつくっていかなければならない。地域と一緒に進めていくことの重要さを感じた。</p> <p>・持ち家・戸建てがゴールでない時代。とにかく大学へ行く学歴重視の時代ではなく、専門職＝職人(農林水産業の 6 次化)の時代。サ高住の設計・環境 vs タワーマ</p>	

<p>ループワークを行うことで、ファシリテーション能力を向上させる。</p>	<p>テーマ(じゅう)住宅政策、まちづくり・エリアマネジメント 後藤 純(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)</p>	<p>ンション。セカンドライフ 20 年の生き方、住み方、過ごし方などを考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年からモザイク型就労の仕組みづくりにクラウドリーシング(ワーカー育成)、来年は GBER(Gathering Brisk Elderly in the Region=地域の元気なシニアを集める)を導入した高齢者のしごとづくりに着手したいと考えている。 ・地域包括ケアシステムについて→在宅医療、コミュニティの課題→住民運営の「通いの場」、地域ケア会議、中間層(普通の)シニア向け、充実が重要(ビジョン) ・盛りだくさんでついていくのが精一杯だったが、館ひろしても住みたくなるまちづくりという観点も新鮮だった。 ・高齢社会の現状と課題。それに対する国としての課題解決の対策、施策など幅広く説明いただき、よく理解できた。事例は行政中心とした組織・団体での活動であるため、社会貢献を第一と考えている事業者でないと継続的な取り組みは難しいだろう。 ・生涯活躍のまちに取り組むためには縦割り行政の解消がポイント。 ・中の中の所得層をターゲットとするというのも面白かった。 ・具体例がとても身近でわかりやすかった。(後藤先生の講義は)草の根の活動をされているからこそ。「福祉つぼく」なるまちづくりの危険と縮小化を感じた。 	
	<p>7. 講義・事例紹介「地域運営組織を活用した取組」 荻野 亮吾(東京大学高齢社会総合研究機構特任助教)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・むかしの公民館を思い出した。子どもから高齢者まで溢れていた。今は各世代で専門のセクション制度、施設ができてバラバラ。 ・形骸化した自治体、町内会、公民館運営を見直すといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつのプロジェクトを達成するための財政支援(交付金、補助金等)を具体的に説明いただきたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・地域の人が中心となり、行政がそこに大きな支援(お金、人材)をもってやっていくことはできないのか。→来

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動の推進、意識の高い親(シングルマザー)の活躍のまち推進事業を。 ・公民館活動は社会教育法に大きな制限を受け、教育委員会の所管であることから硬直した機関に陥っている。新しい器による自由な発想のもとに活動できる領域が必要と感じた。 ・小さな拠点と地域運営組織、分離型の一体化、農林事業→公社、事業会社。 ・人と人とのつながり ネットワーク化、共有化、共通のアイデンティティ、紫波町の事例。 ・公民館を中心とした地域の組織を再編できれば、やれることはたくさんありそうだ。 ・わずらわしい、運営が苦しい組織は解体、は簡単だが再構築するにはどうすればいいか。 	<p>期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が集まる仕組み、仕掛けについて追加いただけるとうれしい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) 
<p>8. ワーク① ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちを構想する」 ファンリテーター: 後藤 純</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者、市町村、違う立場の人たちの現場の声を聞くことができて、とても勉強になった。 ・それぞれの項目にいろいろな要素があり、課題もあることを改めて学べた。 ・(グループの)行政マンの発言は自分が行政に携わっていた時代と同じ発想。退職後に一般社団法人の運営を行うようになり、行政の縦割りの影響を受けることなく、福祉・生きがい・商工のまちづくりをトータルに行えるありがたさがわかった。横軸で動ける「まちづくり法人」の存在は事業の推進に必須。 ・住民のニーズをいかにくみ取るか。行政と事業者のベクトルをいかに合わせるか。介護、福祉、商店街の活性化など、情報交換は有効だった。 ・課題はいろいろ出てくるものの、それらをどう解決していくか要検討する時に、事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少しテーマを絞った方(移住・定住、活性化、空き家の利活用等)がまとまる気がした。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) 

		<p>性はあるか、ニーズはあるかという観点は大事だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの「継続性」「密着性」にとって温泉はキラーコンテンツであり、非常に有効だと感じた。子どもから高齢者まで全世代が集うコミュニティのキラーコンテンツが他にないかを考える必要がある。 ・生涯活躍するための5つの視点がよかった。 ・資料や手法等、持ち帰って実際にワークショップをすることが大切と感じた。 	
<p>3日間で学んだ政策の方向性やビジネスモデルの事例等を知識として習得し、「生涯活躍のまち(市・町・村)」の構想の骨子を作成することで、生涯活躍のまちづくりの実践の具体的なイメージを描く。</p>	<p>9. 講義・事例紹介「住まい」「健康」「活躍・しごと」「移住・住み替え」「コミュニティ形成」 當間 智雄(公益社団法人青年海外協力協会地域連携課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・輪島 KABULET の資金(収支)一覧など、具体的な情報も交えてプロセスを解説いただき、とてもわかりやすかった。 ・当金庫(枚方信用金庫)の地方創生の取組「巡リズム®」(自宅に住み続けることが難しくなった高齢者には、便利な駅前マンションや市内の高齢者専用施設などへの住み替えをサポートし、空いた住居を他地域からの子育て世代の移住促進に役立てていく。同時に子育て世代への資金支援や良質な住環境の提供にも力を入れている)。 ・高知市へも JOCA に進出してもらいたい。 ・細分化して課題を把握することができたのでたいへんよかった。 ・実際の資金構造が見えて大変参考になった。オシャレな空間が障害のある人となない人の壁を壊す鍵になるのではと思った。 ・佛子園だからできるということではなく、社福として取り組める部分はたくさんあると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者、ケアする人、女性等、活躍する人に絞った事例を数多く紹介していただきたい。どのような活躍の仕方があるのかを知りたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・生涯活躍のまちづくりの専門家の話を聞きたい。①フレイル予防: 東大・高齢社会総合研究機構の飯島先生、②GBER システム: 東大先端科学技術研究センターの檜山先生、③伝統を継続的に巻き込んだ地域づくり、リビングラボ: 東大先端科学技術研究センターの〇〇先生。→要検討。

<p>10. ワーク② デ イスカッションテ マ「生涯活躍のま ちのモデルケー スを分析し、生涯 活躍のまちに取 り組む最初の一 歩を考える」 ファシリテーター： 後藤 純</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よそ者同士のグループだからこそ気づけた地域の資源や生まれたアイデアがあった。全国に仲間ができたので、今後も連絡を取り合って相談したい。 ・同じような課題をお持ちの人と話すことでやる気が出た。 ・同時代で自分の生き方を議論、終末医療の考え方、誰に看取られるのか、それまでどう生きるのかを見える化する。 ・実際に事業を展開しているケースを題材として、事業をしている人とケースワーク的なグループワークをやりたい。 ・住民の本当のニーズはどこにあるか、いかに住民を巻き込んだ参加型にするか。 ・取り組みされている自治体の内容を水平展開し、金融機関として何ができるのかを考えたい。 ・まずは住民へのPRが近道。「昨日の自分より、今日の自分が成長している」と感じられる。「それが生涯活躍のまち」に同感。 ・住まい・ハウジングとの連動が重要。サ高住だけではしんどい面もある。 ・異業種、他の自治体など、普段、接点のない、熱意をもって方々と意見交換ができてよかった。 	
<p>全体をつうじて、 アドバイザー人材 育成として取り組 んで欲しいこと、 期待することなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業立ち上げの課題と対策が自分なりに見えてきたように思う。 ・様々な立場の受講生の話が伺えて、いろいろなヒントをいただいた。今後もフォローアップがあれば、参加したい。 ・それぞれが思う地方創生・生涯活躍のまちを発表する時間があると面白い。元々の目的である東京圏への人口一極集中の是正ができると思っている人はいないのか、講師や事務局含めて、皆さんが何を目的に取組をされているか勉強して、自分が目指す生涯活躍のまちを見つけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢化、働き方、IT、外国人労働者等、様々な組み合わせを考えた講座。 ・フレイル予防、GBER、リビングラボについての専門研修をしてほしい。 ・時間が多少ルーズと感じた。→次回で改善。 ・現に事業を行っている人がまずアドバイザーになっていくのがいいのではないか。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)

		<p>・講師の方による様々な視点からの話があり、素晴らしい研修だった。生涯活躍のまちというキーワードで3日間勉強できてとてもよかった。</p> <p>・どのようなプロジェクトでも、最初の一步を踏み出す支援を期待。</p>	<p>・住民向けワークショップの方法等をより実践的に学びたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <p>・ステップアップの意味も込めて今後も行っていきたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <p>・制度、好事例、先進地域の人々を知る人になって、困っている人と一緒に考えられる人になれる研修であってほしい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p> <p>・受講者のネットワーク化など、今後も継続的なものにしてほしい。→受講者の ML 作成、SNS による情報交換。</p> <p>・アドバイザーの人材は豊富。その人材を「この指」ととまらせるよう SNS の活用はどうか。→受講者の ML 作成、SNS による情報交換。</p> <p>・福祉の関係者が多い印象だったが、分野外の内容も多く、他分野の専門職の方に参加してもらい、その視点も学べるとよい。→募集方法の見直し。</p> <p>・参加者が感じている問題ごとにグループ分けをする。→要検討。</p>
--	--	--	--



第4回 生涯活躍のまちアドバイザー研修(東京) 2020年2月10日(火)～12日(木)

<p>地方創生の現状や生涯活躍のまち構想の基本コンセプトの方向性及び具体的な取組事例等の基礎知識を習得す</p>	<p>1. 基調説明「第2期総合戦略における新たな生涯活躍のまち」 中野 孝浩(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局内閣参事官)</p>	<p>・東京一極集中を何とかしなければならないと強く感じた。その原因は何かを考えながら、自分のできることをやっていきたい。</p> <p>・「生涯活躍のまち」の新しい取組の方向性についてとてもわかりやすく説明いただいた。高齢者に絞らず、関係人口の増加に向けて、空間(居場所)と役割(仕掛け)を提案していきたい。</p> <p>・「生涯活躍のまち」はより現実的かつ戦略的な意味が生じてきたと思う。</p>	<p>・2020年度の目玉をもっと強調していただけるとありがたかった。→要検討。</p> <p>・先行事例も盛り込まれ、新たな生涯活躍のまちの推進に関する全体像を把握できた。都市部と地方の人材循環の話をもっと聞きたい。→関係人口のテーマを詳細に。</p> <p>・「生涯活躍のまち」の地域づくりの視点をもう少し詳しく教えていただきたかった。→実践面の言及。</p>
--	--	---	--

<p>ることにより、アドバイザーに求められる人材像を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入としてこれから始まる研修の交通整理となった。 ・国の施策の最新情報・動向を聞いたことは有意義。高齢者移住、サ高住からの展開・進化を確認できた。地域包括ケアシステム構築との関係をもう少し勉強しようと思う。 ・10年スパンの長期で考える必要があるという言葉が印象的。ただ、交付金の関係で早く進めなければならないのが難しいところ。それらを全部イメージして進めていきたい。 ・国が当初進めていた日本版 CCRC から全世代活躍への移行は、本町の生涯活躍のまちとマッチしていると思い、方向性が間違っていないことを実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期のポイントが詳しく理解できた。まち・ひと・しごと創生本部の組織の変遷についても知りたい。→資料として紹介。 ・交付金制度の詳細を聞きたい。→来期の説明に反映。 ・分野横断的な活動の必要性が理解できた。生涯活躍のまちアドバイザーの実際の活動事例を共有できるとイメージがしやすい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)
<p>2. 講演「多機能地域医療福祉連携の住民自治モデル」 速水 健二(社会福祉法人佛子園 B's 行善寺代表) 堀田 直揮(公益社団法人青年海外協力協会事務局長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何か新しいものをつくるのではなく、その場にもともとあったものを人と一緒につくっていくことが大切と感じた。 ・実際の苦労話を伺うことができ、映像も充実。 ・行善寺の仕組みときめ細やかな気配り(服装の明るさなど)などを話していただき、本当に面白かった。 ・事例が参考になった。現地に行ってみたい。 ・佛子園の既成概念にとらわれない柔軟な発想とプロジェクトを推進する力に感動。未利用施設の活用に関して新しい組み合わせによる多機能について考えていきたい。 ・佛子園の障害のある人とない人とのつながり、自然に活かしている様子に感じ入った。 ・空き家の活用が参考。お寺の存在を再認識。 ・佛子園モデルは横展開できるものではないので、わが町にある形を考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佛子園のあり方は理想。他の地域でもやれることができればと思うが、失敗談や苦労したポイントも知りたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) <div data-bbox="1027 1397 1362 1615" data-label="Image"> </div>

	<ul style="list-style-type: none"> ・本町には日本福祉大学があるので、障害者と学生、地域のマッチングを考えていきたい。 ・交渉の可否について語る速水さんが本当に楽しそうでメンタルの重要性を感じた。 ・キーマンを探すという点は信用金庫の業務と通じるものがある。 	
<p>3. 講演「地域主導でつくりあげる生涯活躍のまち」 山崎 亮 (studio-L 代表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成についてのポイントを明確に説明いただいた。 ・インパクトのある内容で面白い。(studio-L と)一緒に仕事してみたい。 ・山口県阿武町での住民参加型ワークショップの進め方、まとめ方がとても参考になった。 ・地域の需要を掘り起こすことから始め、細やかな根回しをしてこられたと思う。賛成、反対がはっきりせず、様子見の人をどれだけ引き込めるかが重要。 ・山崎さんの『縮充する日本』にはたいへん影響を受けた。 ・地域のつながりには時間をかける必要があることがわかった。 ・空き家の利活用は所有者との膝つめと意思の共有がポイント。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お披露目会が有料に驚いた。実行する町民と一緒に取り組むはそのとおり。空き家になる前のアプローチはどんな話のもっていき方をしているのか。→要検討。 ・できればレジュメがほしかった。→要検討。 ・地元住民をまちづくりに参加させ、それをひっぱっていく体制づくり。持続可能なまちづくりの理想の姿。合意形成を進める上での苦労話などを聞きたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー)
<p>4. 座談会「「生涯活躍のまち」アドバイザーに求められる姿勢とは」 中野 孝浩 × 速水 健二 × 堀田直揮 × 山崎 亮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和やかでいい雰囲気の座談会だった。内容もとても興味深く、この雰囲気が各地でまちづくりを地元の方々と進めていく人たちの気質だと感じた。 ・山崎さんが演者、堀田さんが座長兼司会役で各位のコメントを促しているのがよかった。 ・東京一極集中の是正には地方目線の議論が必要。 ・空き家、空き地、とくに不在地主の土地の扱いについてのテーマがよかった。 ・なぜ東京一極集中がだめなのかの回答が面白かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民から出る意見のうち、反対側の気持ちも知りたい。出ていった若者が帰ってくる町の特徴や取り組みを取り上げてほしい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・プロジェクトの進め方、体制づくりをテーマとしてほしい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・地方自治体の財政面がどういう状況かというテーマも取り上げてほしい。→要検討。

		<ul style="list-style-type: none"> ・東京一極集中、空き家交渉、地元理解などでの中野参事官の公私の立場での話が面白かった。ビールを飲みながら困むかたちもよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村(農業)を取り込んだ生涯活躍のまちのつくり方についても教えていただきたい。→要検討。
	<p>5. 情報交換会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーでは(情報交換会も)必ず実施してほしい。 ・飲食を伴う仕掛けはよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その場で名刺交換するだけでなく、参加者がどんなことをされているのか、事前に簡単な資料をもらえれば、会ったときに話がスムーズに進む。→来期に改善。 ・全員と名刺交換したかった。→要検討。 ・自己紹介タイムがほしい。→要検討。 ・取り組みが似ている団体、組織をグループに分けるのもいい。→要検討。 ・座談会方式はどうか。→要検討。 ・会の前後に宿題を出すというのはどうか。→要検討。
<p>政策の方向性や取組事例等を参考に生涯活躍のまち構想の基本コンセプト、テーマに沿って、まちの課題を抽出。グループワークを行うことで、ファシリテーション能力を向上させる。</p>	<p>6. 講義「政策課題の整理と理解」</p> <p>テーマ(い) 地域包括ケアシステム、共生社会、健康増進</p> <p>テーマ(しよく) Soceity5.0 地方都市における次世代産業育成</p> <p>テーマ(じゅう) 住宅政策、まちづくり・エリアマネジメント</p> <p>後藤 純(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・とても参考になった。何度も復習させていただける資料もありがたい。 ・どこかの地域をモデルに、そこをどうすれば生涯活躍のまちにして人が暮らせるか、プランニングしてみたい。 ・バックボーンとして「市民自治、コミュニティ」の知識が必要だと思う。 ・地方創生における金融機関の役割も今後、フレキシブルに考え、リバイスしていく必要があると思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりがちな男性が外に出て活躍している事例、退職後の居場所の実例を知りたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・社会保障経済についてもっと知りたい。→要検討。

	<p>7. 講義・事例紹介「住まい」「健康」「活躍・しごと」「移住・住み替え」「コミュニティ形成」</p> <p>堀田 直揮(公益社団法人青年海外協力協会事務局長)</p>	<p>・堀田事務局長の視点での佛子園の取組は、前日の速水代表の話と合わせて理解が深まった。プロジェクトエリアは小学校区程度というのに共感。</p> <p>・(佛子園のことは)テレビでは知っていたが、「裏側」も聞けてよかった。</p>	<p>・Iターン、Uターンした人の本音とその後について。本当に住み続けているのか、住み続けたいという理由は何かを聞いてみたい。→ヒアリングを行い、来期の講義に反映。</p> <p>・コミュニティ形成について深堀していただきたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p>
	<p>8. ワーク①「視点の共有」「住まい」「健康」「活躍」「移住」「コミュニティ形成」からケースを読み解く</p> <p>ファシリテーター: 堀田 直揮</p>	<p>・立場、年齢、地域の違う方々とのグループワークはとても参考になった。</p> <p>・まちづくりの考え方を整理する上で役立った。</p> <p>・ブレインストーミングが大切。既存資源の活用がキーワード。</p>	<p>・人が生きる、死ぬは全面的な肯定であるといったテーマも。→要検討。</p>
<p>3日間で学んだ政策の方向性やビジネスモデルの事例等を知識として習得し、「生涯活躍のまち(市・町・村)」の構想の骨子を作成することで、生涯活躍のまちづくりの実践の具体</p>	<p>9. ワーク② ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちを構想する」</p> <p>ファシリテーター: 堀田 直揮</p>	<p>・まちづくりの観点で福祉の重要性をあらためて認識した。</p> <p>・組み合わせなど応用しながら、地方で活かしていきたい。</p> <p>・生涯活躍のまちは、そこにずっといられる場所をつくること。地域で人がゆるく結合しながら、自分を大切すること、他人がその人自身を大切にすることが衝突にならないためのものだと思う。</p> <p>・自分の課題にすでに取り組まれている方から貴重な情報を得ることができた。</p> <p>・人と組織の面で悩みがある。</p> <p>・現在、取り組んでいる CCRC の課題を早期にアップして取り組みたい。</p>	<p>・ブレインストーミング、KJ 法以外にも何かないか。→要検討。</p> <p>・構想までいけなかった。→要検討。</p>
	<p>10. 講義・事例紹介「地域運営組織を活用した取組」</p>	<p>・参考になる事例だった。組織は必ず必要。</p> <p>・公民館を意識したことがなかったので参考になった。</p>	<p>・収益事業(自主財源の確保)に取り組む際の法人化についてもっと知りたい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等)</p>



<p>的なイメージを描く。</p>	<p>荻野 亮吾(東京大学高齢社会総合研究機構特任助教)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな拠点と運営組織について、事例を紹介しながら説明いただいたので、自身の事業にとって参考になった。 ・小さな拠点として組織されている公民館を有効的に活用できればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の組織を実際に運営している当事者に話をしてほしい。→テーマも含めて要検討。 ・もう少し時間をかけて講義を聞きかけた。→要検討。 ・指定管理あるいは地域で運営するようになってどうなったかを詳しく説明してもらえるとなおよかった。→要検討。
	<p>11. ワーク③ ディスカッションテーマ「生涯活躍のまちのモデルケースを分析し、生涯活躍のまちに取り組む最初の一歩を考える」 ファシリテーター:堀田 直揮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことをアウトプットできた。後は事業計画に落とすだけ。 ・様々なリソースの活用。 ・いろいろな知恵をいただいた。多くの視点から考えられる。 ・「まちの課題を生涯活躍のまちの仕組みを使って解決する」という考え方は地元で受け入れられやすい。 ・「ごちゃまぜ」の発想。 ・「これ」というものをつくる。ストーリーを明確に地域住民、外部の人、企業の力を借りて一緒につくる。 ・ファシリテーションの重要性。 ・自ら始めるという意味で、当社の空きスペースの開放を要検討したい。 	
	<p>12. ワーク③ ディスカッションテーマ「生涯活躍のまち構想へのアドバイス・ラッシュ」 ファシリテーター:堀田 直揮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の根が深く、その理解ができないので、アイデアがあまり出なかった。 ・関係者分析から始める。 ・様々な職業、経験のある方の協議は刺激的で、面白かった。 ・現在、千葉県旭市で取り組んでいる生涯活躍のまち構想にとっても非常に参考になった。 ・具体的なモデルを考える際にはターゲットとなる層のニーズを把握しないと妥当な提案はできないと痛感。 ・うまくいかないこと、いま悩んでいることが聞けてよかった。 ・発想の多様性。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・他の方にアドバイスすることで自分の考えも整理された。 ・議論を絵的に記録する能力の重要性を痛感。 	
	<p>全体をつうじて、アドバイザー人材育成として取り組んで欲しいこと、期待することなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングの先にある実践論。地域プロデューサー講座にも参加したい。 ・また、参加したい。 ・今回は初日のみの参加で残念。次回は3日間参加したい。 ・講師陣が素晴らしい。 ・このような研修を続けてほしい。 ・本当に疲れて個々に回答する余裕がない。あらためて当方の事業を振り返ることができて感謝。 ・生涯活躍のまちをあらためて振り返ることができてよかった。 ・それぞれが悩みながら進もうとしていることがわかった。 ・ごちゃまぜで新たな地方創生「生涯活躍のまち」を国に提案したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人を動かす交渉力を高める方法についての研修をしてほしい。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・現場体験。→来期の課題(現場でのブラッシュセミナー等) ・今後、生涯活躍のまちアドバイザー事例を共有させてもらいたい。→受講者の ML 作成、SNS による情報交換。 ・今回のメンバーでのグループ化。→受講者の ML 作成、SNS による情報交換。 ・若い世代の取組。→あえてテーマを設けるかどうか、要検討。 ・時間は 9:00~17:00 がよい。→要検討。 ・都道府県単位の開催。→要検討。

研修修了者所属一覧

1	北海道帯広市	33	長崎県	65	(株)ちばぎん総合研究所
2	北海道更別村	34	(公社)沖縄県地域振興協会	66	(株)あきぎんリサーチ&コンサルティング
3	更別村社会福祉協議会	35	(公社)沖縄県地域振興協会	67	(株)しがぎん経済文化センター
4	青森県おいらせ町	36	(社福)弘前豊徳会	68	(株)ぶぎん地域経済研究所
5	秋田県	37	(社福)ノテ福祉会	69	(株)九州経済研究所
6	山形県酒田市	38	(社福)岩見沢清丘園	70	株式会社YMFG ZONEプランニング
7	群馬県玉村町	39	(社福)親愛の里松川	71	株式会社YMFG ZONEプランニング
8	茨城県	40	(有)ケアネット	72	合同会社TEAM3939
9	千葉県千葉市	41	総合ケアサービス(有)	73	特定非営利法人ミライディア
10	千葉県佐倉市	42	NPO法人地域生活支援ネットワークサロン	74	(一社)KEEN ALLIANCE
11	千葉県多古町	43	(株)進幸	75	(一社)高知サマサマCCRCセンター
12	埼玉県秩父市	44	つしま医療福祉グループ	76	(株)みんなのまちづくり
13	神奈川県小田原市	45	(株)スマイルアップ	77	鹿島建設(株)
14	長野県立科町	46	なら社会福祉事務所イースター	78	(株)アバンソシエイツ
15	石川県	47	京都大原記念病院グループ	79	秋田不動産サービス(株)
16	愛知県美浜町	48	参天会・喜入会共同企業体	80	(株)コミュニティネット
17	三重県鈴鹿市	49	牛島地域包括支援センター南寿園	81	(株)コプラス
18	大阪府摂津市	50	特定非営利法人 NPOサポートはこだて	82	(株)デザインアーク
19	大阪府摂津市	51	北海道信用金庫	83	(株)デザインアーク
20	兵庫県尼崎市	52	旭川信用金庫	84	(株)日本旅行
21	兵庫県西宮市	53	日高信用金庫	85	生活クラブ共済事業連合 生活協同組合連合会
22	(一社)三木市生涯活躍のまち 推進機構	54	遠軽信用金庫	86	(株)オリエントファーム
23	岡山県玉野市	55	兵庫信用金庫	87	(公社)日本鍼灸師会
24	岡山県奈義町	56	淡路信用金庫	88	(公社)日本鍼灸師会
25	広島県安芸太田町	57	西尾信用金庫	89	(公社)日本鍼灸師会
26	山口県	58	松本信用金庫	90	学校法人桐丘学園
27	山口県美祢市	59	湘南信用金庫	91	学校法人桐丘学園
28	鳥取県南部町	60	桐生信用金庫	92	熊本大学大学院
29	高知県	61	日本海信用金庫	93	金沢大学大学院
30	佐賀県	62	北都銀行	94	(株)ちばぎん総合研究所
31	佐賀県地域おこし協力隊	63	北都銀行		
32	佐賀県地域おこし協力隊	64	東日本銀行		